

よいネタをさがすのも授業の腕である

三 実習の観察を  
どうすればよいか

教育実習生の仕事は、教師と同じぐらい仕事がある。その中でも、大切なのは次の二つである。

- 1 多くの教師の授業をみる
- 2 子どもの生態を捉える

先輩教師の授業をながめるのはやさしい。しかし、みるのは難しい。授業分析の内容は、みる人の力量が反映する。

授業者とともに視察者の力量も組上りによせられる。

① 授業の始めと終りに「起立」「礼」をさせている教師が多い。逆ににもさせない教師がいる。

小学校の場合、毎回同じことをさせるのにどんな効果があるのだろうか。こういった素朴な疑問が、授業をみるときに大切である。

次の勉強の用意をしてから休みなさい、ではないだろうか。

② 授業中、子どもがざわついたら、どうしているか。大声でどなる。チョークをなげる。竹刀をもって廻る。

どれも効きめはない。着眼点は、教師が子

どもの体をどれくらい動かしているか、である。

例えば、「手をひざの上のせなさい」「おへそをこちらにむけなさい」「足のつまさきを先生の方へむけなさい」などの指示がほし

③ 授業中、どんな指名をしているか。実習生がよくする指名は「わかる人、手をあげて」「読める人手をあげて」である。

ここでは、指名される子どもが偏り、学習の進行にムダが多い。

全員参加の指名方法として、「順番指名(二座席順、名簿順など)や、次のような「全員指名」がある。「全員立ちなさい。声を出して本を読みなさい。読み終わった者から座りなさい」。

④ 指示・発問が「一時に一事」の原則をうらみているか。例えば、学級のきまりを一度に三つも、四つも決めていないか、をみる。

⑤ 教師の指示に一貫性があるか。教師の気分によって、授業日程を変更していないか。

⑥ 教師自身が、指示・発問をどれくらい自覚して出しているか。

⑦ 教師の「ネタ」が、子どもをどれだけゆさぶり、どんな発言やメモがあったか。

次に、子どもを捉える視点をあげる。

① 一人の子どもにこだわる。すぐに全体の子どもをみるのではなく、だれでもよいから一人の子どもに注目する。

そして、一日観察するとその子どもが一人ぼっち(孤立児)か、それともどんな集団に属しているか、判る。

② 次に、クラスの子どもの自分の子ども時代を比較する。例えば、ウルトラマンやリカちゃん人形に熱中した子どもたちと、ファミコンに熱中した子どもどどが似ており、どどがちがうか、考える。

③ 自分のクラスと他のクラスの雰囲気は、同じか、それともちがうか。ちがうならそれはなぜか。教師の影響か、クラスのリーダーの影響か、考える。

④ 休み時間や放課後の子どもの姿を追跡する。意外と彼らのちがう面(裏文化)がうかがえる。

実習生の大変な仕事の一つに、実習記録簿の作成がある。それは、観察の視点からまとめるるとよい。記録簿が成長のスタートになる。

〈千葉大学助教授〉



教育実習  
って何だ?  
不思議世界  
教育実習界探検心得

馬居政幸

私の勤める静岡大教育学部では、例年、五月連休あけの六週間が教育実習期間。そのプレッシャー故か、新学期が始まると四年生は不安と期待? でワクワク・ソワソワ……どうも落ち着かない様子。廊下ですれちがう際の会話は「ヨッ、実習校決まった」「下宿? 自宅?……通いか、大変だね」「朝五時半おきだね、練習しとけよ」といった話題ばかり。こういう私達教官にとっても一年間でもっとも忙しく、また気の重い時期となる。

まず事前に、始まれば問題なく進んでいるかどうか、終われば御礼にと、実習校の挨拶回りに飛び回らねばならない。また、日頃あまり下げることのない頭を低くして、自分の指導生の研究授業を本人より緊張した気分で見学、校長先生や指導担当の先生の前で薄氷を踏む思いで授業の講評をするはめにおこいる。まして、午前中の講義を自主体講が安眠の場にする学生、親しみを込めてではあろうが「先生よっ、俺たちよっ……」と相手かまわず学生スラング? で語りかける男子学生、「イヤダーノ、ウツソノ、カワイイノ……」と感嘆詞でニヤンニヤンお嬢様を装う女子学生を指導生にもった教官の憔悴たるや

はたからみても気の毒なくらい。

ところが「案ずるは難し、生むは易し」とはよくいったもの。実習期間の最後に行う研究授業では、二重人格かと思われる程の変わりよう。緊張するのは我々教官のみ。生まれながらの教師の如く子供達に語りかける姿は感動的でさえある。実習を終え意気揚々と帰ってきた四年生の自信に満ちた顔を見るにつけ、心配したのがあほらしくなるのが、少なくとも私がこれまで経験した実習期間、例年繰り返すパターンであった。

従って、この経験則から、本誌のような間いには、ただ一言「元氣一杯、現場の先生のこと言おうことをよく聞いてガンパッテおいで」で済ませてきた。ところが、ことはそう簡単ではないのかと思ひだしたのが昨年十月の教授会での次のような話題。

「各教官は自分の指導生に対し、研究上のことだけでなく生活全般にわたって注意してほしい。とりわけ本人の性格や将来の希望等についてよく知りなさい」という話。そのときは「へー、大学の教官も金八先生なみにガンパナあかんかなー!」なんて気楽に考えていた。話はそれだけのこと(本当は種々論議

されたようだが、聞いていなかったのだ。だがその後ここ数年の傾向として、どうも教育実習期間に登校拒否にも似た症状を示す学生が増え、特別な指導の必要性が検討されていることがわかった。

本誌編集の川合さんより送っていただいた執筆依頼文には、向山洋一氏の「プロとしての修業が今日から始まる」との言葉をひきつつ「教育実習における具体的な指導場面を取り上げ、プロ教師と実習生の違い、つまり、実習生が気付かないプロのコツといったものを御執筆願います。」と記されていた。これを讀んだとき即座に浮かんだ言葉が「こりや無理だ。現場に立った経験は大学院時代にちよつと教えた高校倫社のみ。向山氏が批判する役に立たない教育論は語れても「実習生が気付かないプロのコツ」など書ける訳がない。と思いつつも、川合さん、そして多分川合さんを通して、勉強しない後輩にチャンスを与えようとしてくれた千葉大学の明石先輩に申しわけないとゾレンマで悩んでいたときに思い出したのがこの話。

教育学部にいるものの、拒否とまではいかなくとも、プロとしての修行に入ることにな

んとなくためらいや不安を感じている人。そんな人に、まあそんなに固くならずには飛び込んでみたらと肩の力を抜くアドバイスぐらいはできるのではないか。跳び箱を飛ばす法則はわからないが、跳び箱を飛んでみるのも面白いんじゃないと誘うことぐらいはできるのではないか。そのあとの問題は向山氏を始めとするベテランの諸先生のコツにまかせればいい。と勝手に考えてジレンマを解消。

それでは「プロのコツとは」なんてことは一時忘れて、教育実習が未知の世界なら「ドゥラえもん」のドコデモドアやタイムマシンでワープする世界も未知の世界と聞きなおり、どじてまぬけど人が一倍好奇心旺盛なのび太。がワクワクしながら旅するような気分になるのも一興。題して「異次元空間不思議世界教育実習界探検への心得」。

まず教育実習生は歓迎されざるエイリアンという話から始めたい。

各学校では学校全体の目標に基づき学年・教科単位の年間カリキュラムが、また各先生により学期・週・時間単位の授業計画がたてられる。そして先生方は、文字通り手作りで生徒を育てあげて行く。なみ大抵の苦勞ではないであらう。その真最中にこの馬の骨ともわからない若造が突然侵入してきて、未熟な技術を若さでごまかし、子供たちと共同戦線をはられてはたまったものではない。

故に、歓迎されざるエイリアンがまずさねばならないことは、侵入した世界を謙虚に

しかし詳細・厳密に観察すること。異文化の理解に必要なのは自文化の背後にある価値や世界認識のコード・文法を相対化し、彼我の異質性を前提としつつも彼の世界の独自性と有意性に謙虚に学ぶ姿勢である。

学校の方針から校長先生、実習担当やクラス担任の先生、何よりも子供達一人一人の性格、好み、行動様式……全て貴重なデータとしてインプット。次いで全てのデータの相互連関のパターン(システム)を、そのデータが收拾された時間や場所や場面(TPO・五W一H)とのセット(構造)において説明すること……と書くに難しそだが、一種の演劇空間を考えればよい。

まず観客の立場から演技者の台詞や身振り手ぶりを、あるいは背景の大道具、小道具、照明、音楽……を通してストーリーとその背後にあるシナリオをどう読み取るかが第一の勝負。それができたら今度はシナリオ作家になってある時は通行人、ある時は脇役作家になる。それができたら今度はシナリオ作家を書くこと。最後に役者になってそのシナリオを演じるわけである。さらには、その演技を再び観客となって批評し、シナリオ作家になって書き直し……と繰り返していくと思えばよい。

探検者から余計者のエイリアン、そして観客・作家・役者と話ぐるくる変わって申しわけない。これも不思議世界の探検故とあきらめてもう少しつきあってみよう。要は自分

三種の神器なり。ただ注意すべきはいずれも実習界では禁書の対象であること。神々の養育を司る司祭の目からみれば、それは無垢の天使を惑わし墮天使へと導く悪魔の書以外の何物でもない。従って、実習界探検の前にした今こそ「翼」や「北斗」のパワーを、「タッチ」や「一刻館」のロマンを、「マリオ」や「ドラゴンバスター」のスリルを感得する時である。逆に一度実習界に入ったならば、あくまで神々との世界にのみその力を使用し、司祭のいるときはまず披露しないこと。まして大司教の前ではその存在すら言ってはならないことを強調しておきたい。

再び話が飛躍したが、最後に学校という世界について一言。実習生にとって教師とその職場たる学校はあこがれの世界であらう。しかし、それは明治五年の学制発布以来、基本的な構造をほとんど変えていない世界である。ことを知ってほしい。一人の教師に数十人の生徒。独立した小宇宙のような教室に黒板とチョーク。個性を画一的制服(背番号付きの校内服)で育てることに疑問をもたない文化。戦後の改革、高度成長による社会変動をへてもなお変化を拒み、逆に外界の変化を自己の不変により批判してきたのが学校という世界ではないか。この学校の内外の制度・文化的な構造的ズレを矛盾なきように(かの如く)するための努力・奮闘を期待(強制)されているのが教師という職業ではないか。それは異文化の浸透をその理解に基づく共存ではな

を教師の卵だと固定したり追い込んだりせず早変わり痕の助になったつもりで異次元空間を冒険してほしいわけ。

さて、その冒険者に最も必要な能力とは何か。気力・体力に気配りと笑顔である。ましがっても頭の切れや口の旨さではない。誰がこようと、何がおころうと、よしんばどんな失敗をしようとも、すべてを笑い飛ばせる能力こそ冒険を実りあるものにする第一条件。悲劇はフアンズムに、喜劇は自由につながる。まさに「笑うかどには福来る」である。「顔で笑って心で泣いて」とよくいわれる。が、同じ笑うなら顔も心も、ついでに身体全体もいきたい。そのために必要なのはいかなる深刻な状況にも押しつぶされぬ気力と体力、とりわけ体力なのだ。そして体力は食べる事から始まる。空腹は悲劇に、満腹は喜劇につながるというておきたい。

では、気配りとは。実習生は見習い工であると思えばよい(ここで再び変身。徒弟制度の下での修行は兄弟子の世話や掃除洗濯に始まる。一人前の職人になるためには雑巾の絞り方、お茶の出し方、椅子の並べ方、すわる順序すべてしきたりに従うべし。たとえ先生方が〇〇先生とよんでくれようと見習い工の身分であることを忘れてはならない。相手は師匠であり兄弟子。夢々同じ先生なのだ)錯覚した行動をとらないこと。他方、生徒は御客様であり偉い批評家である。いわば神様であり採点官。それを怒鳴ったり殴ったりする

く、拒否もしくは自己の優位性においてのみ認める行為に思えてならない。このような愚見が偏見であることを望むが、もし少しでも当たっていたら、むしろ不安を抱く実習生の気分こそ正常ともいえないか。多様な文化の共存を認める世界ならば「腐ったミカン」の論理など出てきようもないであらう。

プロのプロたる所以はその作り出す製品の質において問われるべきであり、技術の保持自体ではないであらう。また真のプロは自己の世界を相対化しより大きくかつ多様な世界に飛翔する勇氣をもつべきではないか。プロになろうと張り切っている読者諸兄の気分をそぐようて申し訳ないが、どうか教師ではない自分、今の自分を忘れずにプロの世界の修行に向かつてほしい。子供達に「先生」と初めて呼ばれたときの身のおきどころのなさを忘れないでほしい。徐々にそれが当たり前になっていく意図せざる変身の過程を見つめる目を養ってほしい。しんどいな、いやだなと思ったら、ちょっと世界をみるメガネの色合いや角度を変えてほしい。厳しい修行に耐える見習い工を演ずる名優に、あるいは勇氣と機智に富んだ冒険者にと意図的な変身を楽しまつつ、異次元空間に浮かぶ宇宙の法則を探索する気分て頑張ってほしい。その一助にでもなればと願いつつ駄文を終わりたい。

〈静岡大学助教授〉

のはもつてのほか。御機嫌を損ねれば平伏するのみ……が、それは卑屈になることではない。所詮は一人前になるための修行。まして卑屈は暗さにつながる。暗さは悲劇に……あくまで明るく笑顔を忘れずに。それでももし耐えられないという心が少しでも芽生えたら再び変身。今度はシェイプアップのためにアスレチックセンターに通うやや肥満体の青年になればいい。

情眠、飽食、運動不足で緩んだ体を締めるため、高い金を払ってインストラクターに怒鳴られながら流す汗を思えば、ほとんど只同然で、早朝から深夜まで冷汗たっぷり流させてくれる先生方と生徒には感謝こそすれ恨むなど筋違いもはなはだしい。味気ない給食も究極のダイエットメニューをさがすグルメの旅と考えるのもいいがなものか。

さてその子供だが、神様は神様でも極めて気紛れな神様であること、おまけに変幻自在なアシランマンの如き顔をもった悪魔超人ともなることを忘れるなと言いたい。彼らと戦うにはドジでマスケでもいいが火事場のクソ力を秘めた打たれ強い肉体と、いかに不利な戦いでも冗談を絶やさない図太い神経が必要(ここで再び変身、キン肉マンに)。そのような子供達との「翻訳コンニャク」はマンガにアニメにファミリコンピュータ。神様の神様が一六連射の高橋名人であることを銘記せよ。マンガ週刊誌、テレビ夜六時九時、ファミコン攻略本は神様に近づくとバイブルか

# ツウエイ学生版

1987. 第1号

## 7-47 教育実習なんか怖くない!!

### 教育実習って何だ?

- 8 これで教育実習は安心だ!! 明石要一
- 11 不思議世界教育実習探検心得 馬居政幸
- 14 教育実習にとって「法制化」運動とは何か 岡本明人

### 教育実習奪戦記

- 17 教育実習を「祭り」でしめくくる、形容詞・形容動詞ゲーム 沢崎正
- 18 教育実習で役立つ掃除の指示 武井宏次
- 20 ねぼうしても「道徳」は論じられる 諸野脇正
- 23 実習記録簿、こまったときにはどうするか 徳田葉子
- 26 教育実習の記録(日誌)はこう書く 西尾文昭
- 27 前から後ろにまかせない物を配る方法 嶋崎雅子
- 28 分析批評で、英語の授業 / 荻野和男
- 29 一石三鳥「一列指名」 / 新井芳彦

### 実習生の知らないプロのコツ

- 30 〈国語〉法制化運動は実習生の指導法を変える 大森修
- 33 〈社会〉学び姿勢をつくれ 有田和正
- 36 〈理科〉子どもの活動の背面をいつも探ることである 押味忠雄
- 39 〈算数〉算数授業に挑む実習生へのひとこと 坪田耕三
- 42 〈体育〉誰でもできる楽しい体育 根本正雄
- 45 〈学級経営〉一人ひとりの子供の姿をとらえる 佐々木俊幸

### 48-62 ぜったい受かる採用試験

- 48 傾向分析で無駄を省け 武井宏次
- 49 教育法規スケルトン 佐野実
- 50 ゴチャゴチャ西洋教育史&要点整理ノート 佐野実
- 53 イラストで覚える学習指導要領 岩本康裕

### 68-77 明るく教師修業

- 68 二世紀の教育を創る「仮想授業」 荒井賢一
- 71 教師は修業によってのみ成長する 高階玲治
- 74 60年型フウェイ文化から80年型ツウエイ文化へ 向山洋一

2	〈手刀の極意〉—写真で見る、プロ教師の技術—
4	〈こわ〜い 思い出(だけ)の教育実習〉
5	今号のハガキ
6	編集前記
63	第2回法制化学生合宿開催のご案内
64	400字アンケート
78	学生サークル紹介
80	サークル通信
82	全国サークルリスト
84	事務局員度チェック!!
86	編集後記

表紙イラスト・飯島英明



# 原稿オクレ。 『学生版』編集部



## テーマ例

- 教員採用試験奮戦記
- 役に立った大学授業の記録報告
- 指導案の書き方
- 実習中の服装センス・アップ講座
- 授業を観る時のポイント
- 子どもにうけた授業の裏話
- その他

締切り 1987年5月末日 ペンネーム可  
(採用分には、稿料をお支払いいたします。)

あて先 〒273 船橋市市場3-16-1-603 徳田葉子